

# 医学概論

専門教育科目 / 2 単位 / T 授業

担当教員 水野 大

## ■使用テキスト

一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟(編集)  
『最新・社会福祉士養成講座第1巻 医学概論』中央法規出版

## ◆参考テキスト

1. 「新版看護学全書別巻9 医学概論」メヂカルフレンド社：小坂樹徳
2. 「からだの不思議」ナツメ社：加藤征治
3. 「人体の正常構造と機能；I-X」日本医事新報社：(総)坂井建雄
4. 「系統看護学講座専門基礎7 総合医療論」医学書院：小泉俊三
5. 「わかりやすい公衆衛生学」三共出版：竹田美文・安達修一
6. 「イラストで見る診る看る；シリーズ全巻」医学評論社；看護国家試験編集委員会
7. 「イラスト解剖学」中外医学社；松村譲児
8. 「生命倫理・医事法」医療科学社；塚田 敬義・前田 和彦

## 講義概要・一般目標

医学概論では、将来社会福祉関係の職種に就職することを目指すコメディカル領域の学生諸君にとって、必要で最小限度の医学に関する知識を習得し、理解してもらうことを目的としている。具体的学習方法はテキストにそって、(第1章)生命の誕生から老化における精神・身体の変移を理解する。(第2、3、4章)身体の構造と機能を暗記し、病とは何かについて学ぶ。医学を学ぶにおいてはこの章が基本となる。正常な人体の解剖と生理機能の知識がなければ、その先にある病気を理解するのは困難となる。よってこの章では理屈よりも「覚える＝知識を得る」ことを中心にしてほしい。(第5章)諸々の障害とその克服(訓練)を学ぶ。(第6章)第3章で得た知識とこの章で補足する知識をもとに各種疾病がどのように生じてくるのかを理解する。疾患を学ぶにおいてはこの章が大切である。前章とは異なり知識をもとに「考える」ことをしてほしい。医療現場では考えなければ対応できない事が数多くある。その際に正しい知識から正しい結果を考えることができる能力が求められる。よって「考える」訓練をしてほしい。(第7章)法律と絡めながら医学における現状と対策を理解する。

## 到達目標

- 1) 医学を理解するために、その基礎になる人体の構造と機能について学習する。
- 2) 誕生から老化に至るライフステージごとの精神・身体の変移を理解する。
- 3) 人体の構造と機能について得られた知識を基に、重要な疾病、社会環境の変化によって出現した新たな疾病群、生命を脅かす疾病、重大な感染症、社会参加を阻む心身の障害などについて考え、これらがどのようにして生じてくるのか、また、予防・治療など克服法について説明できるようにする。
- 4) 医療制度について法律とからめながら学びその現状と対策について理解を深める。

## 評価方法

科目単位認定試験により評価。

# 学習指導

## 第1章：ライフステージにおける心身の変化と健康問題

### 第1節 ライフステージにおける心身の特徴

生後どの期間で、どの臓器がどのように発達し機能するのかを学習する。

### 第2節 心身の加齢・老化

老化は、人間の成長過程において受精・分化・成長に次ぐ退行期の状態で、普遍性・内在性・退行性を特徴とする。老化に伴う順応性が低下して破綻すると死亡にいたる。この節では老化による心身機能の変化を学習する。

### 第3節 ライフステージ別の健康問題

胎生期から高齢者に至る各年代における代表的な心身の健康問題について学習する。

## 第2章：健康および疾病の捉え方

### 第1節 健康と疾患の概念

健康と疾病の定義、現状について学習する。

### 第2節 国際生活機能分類（ICF）

障害の概念について、国際生活機能分類（ICF）を中心に学習する。

## 第3章：身体構造と心身機能

### 第1節 人体各部の名称

体の名称と骨の名称を暗記する。

### 第2節 各器官の構造と機能

水分調節、血液の機能と成分、心臓の構造と機能、腎臓の構造と機能、呼吸器系の構造と機能、消化器系の構造と機能、神経系の構造と機能、内分泌系の構造と機能、免疫系の構造と機能を学習し暗記する。

## 第4章：疾病の成り立ちおよび回復過程

第1節で学習する疾病の発生原因には外的要因と内的要因があり、これらが単独あるいは複数の因子が関与する。これらの要因による生体反応、病変の成立について第2節で学習する。

## 第5章：リハビリテーションの概要と範囲

医学的にリハビリテーションとは何か？という問いに対して概念を理解し、その目的、対象、方法について学習する。医学的リハビリテーションに関与する専門職種は、医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、体育専門職、義肢装具士、視能訓練士、臨床心理士、臨床工学技士、メディカルソーシャルワーカー、精神保健福祉士、社会福祉士、心理専門職、介護福祉士、教師、寮母、栄養士、調理師、手話通訳士、生活訓練士、自動車運転技術指導員、職業カウンセラー、職業指導員他と多種多様である。包括的リハビリテーションを進めるには、医療と福祉を機能的にどう統合するかを考える必要がある。

## 第6章：疾病と傷害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション

### 第1節 感染症

病原体（原虫、真菌、細菌、ウイルス）が生体内に入った場合に、どのような病気を引き起こすのか学習する。特に近年話題になっている細菌とウイルスを中心に学習をすすめる。

### 第2節 神経疾患、認知症、高次脳機能障害

さまざまな脳疾患に起因する、認知症など主な高次脳機能障害に関して、原因と病態、診断、リハビリテーション等について学ぶ。

### 第3節 脳血管疾患

脳血管疾患には脳血管が詰まる脳梗塞、脳血管が破れる出血性脳疾患がある。これらに関して原因と病態、診断、予防等について学ぶ。

### 第4節 心疾患

この節では、循環器の疾患がどのように生じ、その結果生体がどのように変化していくのかを考える。

## 第5節 内分泌・代謝疾患

糖尿病などの代謝疾患はどのように生じ、病態がどのように進んでいくのか考える。またこの章では甲状腺など内分泌組織の疾患についても学習する。

## 第6節 呼吸器疾患

加齢などの要因との関連性を考慮しつつ呼吸器疾患の成り立ちと治療法を学ぶ。

## 第7章 腎・泌尿器疾患

腎臓の機能を復習し、腎臓が機能しなくなる意味を考える。また膀胱や前立腺の機能と疾患について学ぶ。

## 第8節 消化器・肝胆膵疾患

肝臓・膵臓・胆嚢の疾患を中心に学ぶ。

## 第9節 骨・関節の疾患

骨粗しょう症とは何かを学び、現状を把握する。変形性骨関節疾患及びリウマチについて学び、日常生活動作や介護への影響を理解する。

## 第10節 血液・免疫・アレルギー疾患

免疫系の血液細胞を中心に病気の成因を考える。

## 第11節 眼科疾患、視覚障害

白内障・緑内障など主要な眼科疾患について学ぶ。

## 第12節 耳鼻咽喉疾患、聴覚障害、平衡機能障害

難聴・めまいなど主要な耳鼻咽喉疾患について学ぶ。

## 第13節 口腔疾患

歯・歯周組織の構造、および主な疾患について学ぶ。

## 第14節 婦人科・産科

生殖器の腫瘍や更年期障害について学ぶ。産褥期の精神障害、育児放棄などの児童虐待特定妊婦について理解する。

## 第15節 精神疾患、精神障害、発達障害

代表的な発達障害についてその診断、入院制度などについて学び、精神疾患の患者に関わる際のソーシャルワーカーとしての視点を理解する。

## 第16節 小児科疾患、肢体不自由、知的障害

出生前に発生した異常に基づく先天性疾患、発達途上の小児期に特有の疾患について学ぶ。

## 第17節 高齢者に多い疾患

高齢者の病気の特徴は、健常な老化との境界が不明瞭で、症状が非定形的で、一般に軽度なため、発見が遅れ、重篤化を招く傾向にある。この節では老化に伴う細胞の機能低下、廃用症候群の発症を中心に学習する。

## 第18節 生活習慣病（総論）、内部障害

生活習慣病の病態、予防などの対策を学ぶ。内部障害の概要について理解する。

## 第19章 悪性腫瘍と緩和ケア

悪性腫瘍の成り立ちと現状を学び、どうすべきか対応を考える。

## 第7章：公衆衛生の概要

公衆衛生の理念と目的、集団における健康問題に関する予防医学、社会医学の役割と実際について学ぶ。疾病予防、健康の保持増進、健康管理、産業看護、環境保健などの諸問題から環境と生活の健康を考え、健康に関わる社会的要因について理解する。